

目次

- 第5回大会 テーマ「学校におけるソーシャルワーク実践の検証—成果と課題」
- SSW をめぐる今日的動向
- 全国各地から—地区研修会・地区大会の報告
- 地区世話人」の公募
- 学会事務局日より

第5回大会 テーマ「学校におけるソーシャルワーク実践の検証—成果と課題」

日時

2010年7月10日(土)、11日(日)

※内容(案):時間等の詳細については、後日、学会HPにアップします。

会場

大阪府立大学(堺市・中百舌鳥キャンパス)

7月10日の概要

- 大会企画シンポジウム「学校におけるソーシャルワーク実践と研究の検証～ソーシャルワークの視点から～」
- 懇親会/年次総会

7月11日の概要

- 自由研究発表分科会
- SSW の集い/学生・院生の集い
- 課題別分科会
 1. 「貧困・低所得家族に対する制度とSW実践」
 2. 「青年期課題と学校ソーシャルワーク」
 3. 「荒れた中学校での学校ソーシャルワーク実践の取り組み」
 4. 「SSW活用事業の財源確保問題とSSW活用の工夫」

学会事前企画 基礎研修、専門研修(7月10日)

自由研究発表の募集

大会準備に先立ち、自由研究発表を募集します。詳細は、近日中に学会ホームページに掲載します。

メール(nsuzuki@educ.fukushima-u.ac.jp)、FAX:024-548-8114にて、学会事務局まで、氏名・所属・題目(仮)を明記の上、ご連絡ください。

応募者の資格は、当該年度学会会員(会費納入)であることです。

応募(エントリー-)の締め切りは4月10日(厳守)で、折り返し、発表集録用原稿の執筆要項や発表時の要項をお送りします。

ふるってご応募ください。

<SSWをめぐる今日的動向>

日本社会福祉士養成校協会によるスクールソーシャルワーク教育課程始まる! 山野則子(大阪府立大学)

その経緯

2005年4月より、大阪府において組織的にスクールソーシャルワーク(SSW)事業を開始しました。全国でも、組織的構造的(府教委・市教委・学校/SV-SSWr)に位置付け開始したのは初めてのことでと思います。2005年2月予算確定時から、早速人探しに奔走し、実際、苦労しました。そんなことから、事業をうまく進行させることと同時に養成の課題が当初から存在していました。2005年度に大阪府社会福祉士会と協働して、スクールソーシャルワーカー(SSWr)養成講座を企画したり、2007年度から府立大学においてSSW研究会を開催してきました。その背景には、2005年以来大阪府内の市町村や近隣自治体において独自採用を企画される自治体が出現し人材が求められたことにあります。さらに、2008年のSSW事業が全国展開したことによって、専門家である人材養成のニーズが高く寄せられたこと、社会福祉専門職の養成と領域拡大が社会福祉系大学の課題でもあったことから、日本社会福祉養成校協会において、SSW養成事業企画準備委員会として、2008年2月から検討を重ねることになりました。

養成の内容

それは、かなりの回数の会議を重ね議論し、日社会福祉養成校協会の理事会、総会を経て、認定制度を開設しました。教育課程開設に関して養成校が申請し審査されるシステムが実施され、2009年度10校から開始する運びとなりました。しかし、2009年度は、2年後、3年後から開始の養成校もあったため、実際に始めたのは数校です。しかし、2010年3月には認定スクールソーシャルワーカーが誕生するのは確かです。その科目内容(表1)と課題を確認しましょう。

本校では、大阪府内の高い喫緊のニーズがあるため、科目履修も数名認め開始しました。学生にとって、まだまだ学校のなかでSSWrの認知と位置がはっきりしない段階で苦悩するSSWrに指導を受けて実習できたことは非常に大きな体験となりました。単に学校を知るといレベルではなく、ソーシャルワークの新しい領域である学校において、ソーシャルワークの変革のプロセスをしっかりと学びとり、教育実習ではない体験を重ねたことは大変な力です。もちろん、体育大会のライン引きなどの教員の仕事もともに行い、学校教育のレクチャー、学級に入る見学実習も並行しながら、SSWrとともに家庭訪問、ケース会議に参画などの体験、さらに適応指導教室の見学、児童養護施設や発達支援センターの見学なども含んだ全体の中でSSWrの動きが見えるように工夫しました。SSWr不在の学校では不可能な体験です。教育実習、社会福祉実習(児童相談所や福祉事務所等)、保育実習などを経ている学生も多く、それぞれの違い、実習の意味をしっかりと理解することができました。

養成の課題

いろいろ議論を経ての教育課程の始まりですが、学生の反応、実習先である学校や教育委員会の反応からも、養成校そして実習先のSVをしている立場で、たくさんの学びがありました。学生の教育効果は先に述べましたが、現場の学校や教育委員会の効果は学生が入ることで各学校1人1人の教員に、さらにSSWが理解され、共感や好感をもたれたことです。また、SSWrにとっても実習指導を行うことで自分の仕事の整理やいつも見られる緊張感が力を高めるのに貢献したようです。

つまり、重要な点は、SSW実習にはワーカーつきの実習が必要であること、それによって現場も高まるような配慮やサポートが必要であることです。単に学校現場を知ればいいのではなく、学校の価値観を学び、そのなかで苦悩するワーカーの手法を学ぶことが重要です。そして、現場を大切に育成する視点を失わないことが養成校にとって重要な課題でしょう。

もうひとつは、現在のSSWrの雇用が全国的に非常勤であることは、学生にとっても大卒すぐに非常勤で就職する決定になりにくいことやフィールドである学校や教育委員会にとっても、経験のある人を求めることから、SSWrの拡充と新卒すぐでも現場の複雑な問題に対応可能なSSW養成に責任を持つことが課題といえましょう。

表1.スクールソーシャルワーク教育課程科目

科目名(免除)	時間数
スクールソーシャルワーク論	30時間
スクールソーシャルワーク演習	15時間
スクールソーシャルワーク実習指導(SSWr実務経験2年以上の者)	15時間
スクールソーシャルワーク実習(SSWr実務経験2年以上の者)	80時間
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(児童福祉論)(社会福祉士資格所持者)	30時間
精神保健学(精神保健福祉士資格所持者)	30時間
教育社会学他(教員免許所持者、SSWr実務経験2年以上の者)	30時間
教育心理学他(教員免許所持者、SSWr実務経験2年以上の者)	30時間

「スクールソーシャルワーク」とわたし 大崎行広(目白大学)

私がスクールソーシャルワークに初めて出会ったのは、平成に入って間もない頃、ちょうど大学院を出て2年ほど中学校の教員をしていた時のことでした。当時、特殊学級の常勤講師をしており、埼玉県の中学校で1年間、情緒障害児学級の担任をしていました。その時、障害を持っている生徒との関わりの中で、特に、家族との関わりや就学指導の場面で福祉的な支援が特殊教育の現場にも必要だということを実感しました。その後、私はもう1年、所沢市内の中学校で社会科の常勤講師をすることになりますが、その中学校でも非行生徒との関わりの中で、学校現場に福祉的支援が必要なことを痛感しました。

ちょうどその頃は、マスコミでも所沢での山下英三郎さんの実践が紹介され、山下さん流の「スクールソーシャルワーク」が日本の中で少しずつ知られるようになっていた時期でした。私は、学部と大学院で障害児教育(障害児心理学)を専攻していましたので、当時は「ソーシャルワーク」の意味も知らずに、山下さんの本を読んだり、講演会に行ったりして、「スクールソーシャルワーク」に惹かれていたように思います。

学校教育の現場経験は、2年間と短い期間でしたが、その間、経験したことは、今、学校現場でスクールカウンセラー(アイデンティティはスクールソーシャルワーカーですが…)として仕事をするのに大役に立っています。教員の業務や学校行事、学校組織や学校文化など、実際に教員として勤務しなくては得られない経験の中から、とても多くのことを学びました。

その後、私は三重県の専門学校に就職し、社会福祉士と介護福祉士の養成に携わるようになり、そこで初めて学問としての「ソーシャルワーク」に出会いました。たまたま私の修士論文のテーマが、ソーシャルワークの基盤に関わる内容に関係していたため、ソーシャルワークの専門科目を担当することとなり、以後20年近く、ソーシャルワークを専門分野として担当しています。そして、この間、福祉系大学の通信教育で社会福祉士の受験資格を取得し、後に社会福祉士と臨床心理士の資格を取得しました。

大学院修了後、専門学校・短期大学・大学と教職に就きながら、保健センターの心理相談員や障害児の早期療育に関わり、長い間、学校現場でのソーシャルワーク実践を模索していましたが、相談員として本格的に学校現場に関わるようになったのは、宮城県の大学にいた時(平成12年)に、仙台市のスクールカウンセラーとして勤務するようになってからのことです。それから今日まで、宮城県と群馬県の中学校でスクールカウンセラーとして学校現場に関わってきています。

私がスクールソーシャルワークに関心を持ち始めた頃、日本でのスクールソーシャルワークに関する文献は、上田千秋先生の「学校社会事業研究序説」(佛教大学紀要)や村上尚三郎先生の「教育福祉論序説」(勁草書房)など、ごく限られた文献しかありませんでした。これら日本における歴史的な文献の中には、1960年代に日本の学校現場で既に福祉的な実践やスクールソーシャルワークの必要性の提言がなされていたことが記述されています。これらの文献を通して、私は日本のスクールソーシャルワーク実践の歴史に関心をもつようになり、この関心が現在の中心的な研究テーマとなっています。

全国各地から-地区研修会・地区大会の報告

2009年度学校ソーシャルワーク研修会(福岡)に参加して 北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー 西島 秀幸

2009年8月24日、福岡県春日市のクロンバープラザにて、「2009年度 学校ソーシャルワーク研修会」が開催されました。

スクールソーシャルワーカー、教育関係者、学生などを対象とした研修会であり、他県からの参加者も多くみられました。

午前中は、福岡県教育委員会義務教育課教育相談室指導主事の柴田 徹先生による行政報告と、福岡県立大学教授で日本学校ソーシャルワーク学会代表理事の門田 光司先生による基調講演が行われました。

柴田先生の行政報告では、不登校児童生徒数の推移や介入ケースの支援方法内訳、スクールソーシャルワーカーが介入しているケースが抱える課題についてなど、実際の数値をもとに説明が行われました。介入ケースの抱える課題として不登校が多いこと、不登校児童生徒数は減少傾向であることなどのお話を聞きながら、自分自身の活動状況や成果と照らし合わせて考える良い機会となりました。

門田先生の基調講演では、海外の学校現場で実践されているソーシャルワークについて、スライドで写真や動画を見ながら説明が行われました。各国でスクールソーシャルワーカーの名称や取り組みに違いはあっても、その役割のなかで使用される支援方法には多くの共通性があるのだということを改めて感じました。

午後からは、「学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの役割～実践現場からの報告～」と題したシンポジウムが行われ、福岡県内3市町(福岡市、筑紫野市、苅田町)のスクールソーシャルワーカーや教育委員会の指導主事がシンポジストとなってそれぞれの活動状況や成果などについてお話をされました。各地域ともに様々な工夫を凝らした活動を実施されており、私もシンポジストの専門性の高いお話や意見を聞きながら、「自らの活動内容を見直さなければ」と感じ、身が引き締まる思いとなりました。また、会場からは多くの質問が出されており、スクールソーシャルワーカーの実践や成果に対する参加者の関心の高さを感じました。

盛況であった研修会終了後には懇親会が開かれました。ジンギスカンを食べ、お酒を飲みながら、他地域のスクールソーシャルワーカーの活動状況などの情報交換等を行うことができました。皆さんと楽しくも熱い語らいのなかで、多くの活力をいただくことができました。

私自身、昨年5月から北九州市教育委員会派遣型スクールソーシャルワーカーとして様々な学校を訪問し活動を行う中で、学校現場や児童生徒・家庭への支援方法について悩む場面があり、同時に自らの知識や技術不足を感じることも多くあります。今回の研修会に参加して、学校現場でのソーシャルワークについて自らが持っている知識を再確認できたとともに、実践や成果のお話から自分自身の活動内容を振り返るとても良い機会であったと感じています。

今回の研修会で学んだことや感じたことをこれからの活動に生かしていくよう努めるとともに、今後も、知識や技術の向上と日々変化する教育現場の状況把握に努めながらスクールソーシャルワーカー業務に携わっていきたく考えています。

貴重な研修会に参加させていただきありがとうございました。

日本学校ソーシャルワーク学会東北地区大会報告 高橋恵里香(東北地区担当理事)

昨年度の「スクールソーシャルワーカー活用事業」を受けて、東北地方にも灯った学校(スクール)ソーシャルワークの灯を絶やすことなく、東北の文化や風土に根付いた学校(スクール)ソーシャルワークを定着させていく第一歩として、2009年10月24日(土)日本学校ソーシャルワーク学会東北地区大会を福島大学(福島市)にて開催いたしました。

午前中は、福島家庭裁判所いわき支部の家庭調査官である田中敏政氏に「家庭裁判所から見た子ども・家庭・ソーシャルワーク」と題した基調講演をしていただきました。家庭裁判所や調査官の仕事内容について、事例を交えて話していただきました。家庭裁判所は決定機関であり、調停を成立させて審判を行うところであるが、自己解決・自己実現を支援する場でもあり、そこに至るまでに様々な機関と連携を持ち調整をしていくソーシャルワーク的な関わりが必要になる、という話が印象的でした。

午後は3つの分科会に分かれてテーマ別に検討会が行われました。1つめの分科会では、福島県SSWの宮地さつき氏が「チーム作りと社会資源の開発を通じたネグレクトや長欠席児への支援」の報告をしました。勤務先のSCと一緒に仕事をした養護教諭も分科会に参加しており、協働する上での、物事の共通理解の方法、チームを形成するときの課題や問題点、有効性、その苦勞などについて、多面的に話し合われた。

2つめの分科会では、宮城県大崎市SSWの安藤操里氏が「医療の現場で出会う子どもや家族へのアセスメントと支援」の報告をしました。精神科医療現場での基本的な仕組みについての説明のあと、事例を通してつなぐ方法や調整する方法について話されました。参加者からは、SCとの違いや連携のあり方、情報交換やケア会議を行う時間の確保のし方等について質問が出されました。

3つめの分科会では、福島県SSWの鹿島丈夫氏が「中学校卒業後の進路支援とソーシャルワーク」の報告をしました。経済的な理由で高校への進学を断念したり中退することを防止するために奨学金や貸付制度等の情報誌を作成したり、商工関係や自治体、NPO等と就労支援をしていく組織作りに取り組んでいることについて話されました。参加者からは、中学校で本人に向き合った進路指導をしていくことの必要性や、福祉サービスの枠に入らない(入りたくない)青年への支援のあり方について意見交換がなされました。

参加者は50名ほどで福島県の福祉関係者や学校関係者が多かったです。しかし、東京からの参加者や、山形県の教育委員会の方々も参加され、こじんまりとしながらも、中身の濃い東北地区大会だったと思います。来年度も継続していきたいと思っています。

なお、本大会に合わせて、『東北の学校ソーシャルワーク』(創刊号)が刊行されました。是非とも、毎年、こうした成果が形となって残していけるようにがんばっていきたくて考えています。

『東北の学校ソーシャルワーク』(創刊号)の目次

巻頭言・子どもの生活によりそって-東北で考える学校ソーシャルワーク(鈴木庸裕)

1. 2008年度の東北地区研修会をふりかえって

- 家庭-学校-地域の協働をめぐるスクールソーシャルワーカーの役割-チームで取り組むこと-(鈴木庸裕)
- スクールソーシャルワークの実際(佐々木千里)
- 鼎談「スクールソーシャルワーカー活用事業」への期待(畠山 雅之 島香実 三浦光子 藤井俊子 高橋恵里香)
- スクールソーシャルワーカー養成研修に関する試案(高橋恵里香)
- 活動報告・資料(新聞記事等)

2. 各県「スクールソーシャルワーカー活用事業」の動向

3. スクールソーシャルワーカーからの報告

- 精神科ソーシャルワークの視点から考えるスクールソーシャルワーク(安藤操里)
- 実践から、今、感じていること(小関悦子)
- 1年間のスクールソーシャルワーク活動を振り返って(高橋幸恵)
- コラム ワーカーの声(鹿島丈夫)

4. スクールソーシャルワークに期待すること(斎藤次弥、門脇祥子、立花正人、千葉哲子、市職員・福祉係担当)

編集後記

地区世話人」の公募

学会発足当時より、学会理事が手分けして各地区担当者となり、学会ホームページに氏名・所属・メールアドレスを公表してきました。こうしたルートを通じて、入会希望者や研修会・学習会への要望、SSWへの質問・意見、スーパーバイズの依頼、学会内外からの声などに対応していただきました。

しかし、昨今のSSWをめぐる全国状況や300名を越える学会規模になる中で、顔が見える学会運営、主体的な会員活動などの充実が大切になっています。

そこで、学会理事会では、SSWの実践や研究の発展、そして学会の社会的貢献の1つのアクションとして、会員と共に、各地区で「地区世話人」としてご協力いただける会員を公募することにしました。

この「地区世話人」は、地区(ブロック)の代表という性格ではありません。役割としては、地区あるいは都道府県ごとの研修会や学習会に積極的に関与していただいたり、会員内外からの問い合わせなどへの対応など、実務的にもお力をお借りしたり、その他、必要と思われること様々あるかと思えます。ただ、応募条件としては、本学会会員であり、氏名・所属(あるいは役職)・メールアドレスを学会HP上のコンテンツ「地区世話人」欄に公開していただき、情報や地区活動支援の橋渡しなどを「やってもいいよ」とっていただける方です。

今回の学会通信による「募集案内」に先立ち、すでに、学会メーリングリストで募集し、10名近くの方から手を挙げていただいたり問い合わせをいただいています。とりあえず、本学会通信発送後、12月15日あたりで、ホームページのメンテナンス作業の関係もあり、この募集実務はいったん終了します。

応募に関する問い合わせやご連絡は、学会事務局鈴木・メール(nsuzuki@educ.fukushima-u.ac.jp)までお願いします。

学会事務局だ・よ・り

理事会報告

11月3日の理事会報告。9名出席、午前10時から午後3時。「東京駅八重洲倶楽部」において。

①第4回大会の収支報告

大会事務局学会から大会収益のうち50000円寄付が学会に寄付された。

②3年間会費未納1名の除籍確認。

会員総数は310名。

③第5回大会の準備

大会テーマ「学校におけるソーシャルワーク実践の検証-成果と課題」(仮)

課題研究分科会の骨子検討(大会案内参照)。

大会事前の研修会の拡充-研修委員会にて検討。

④編集委員会報告

15報の応募。うち2報のファーストオプサーが同一のため、毎号、多くの会員からの投稿を保障する学会誌の使命という観点から、毎号1報とすることで確認。別途、編集委員会を関西で開催。査読者を「編集協力委員」として選定。来年5月末刊行をめざす。

⑤研修委員会報告

教委、指導主事レベルの研修の重要性。自治体動向との関わり。検証。地区毎の研修会等への財政補助について。

⑥研究委員会報告

「学会学術助成」の制度は今回先送りし、次年度の予算の拡充化後に告示・実施する。

全国・実態調査の実施を年度をまたがっても追求する。

⑦「地区世話人」の応募

学会ホームページ掲載の地区担当理事を「地区世話人」とし、メールアドレスを公表してもよいことを前提に、各地でスーパバイザーや相談・支援に助勢いただく会員を公募する。

⑧2010年3月に第3回理事会

参集範囲:代表・副代表・各種委員会委員長、大会実行委員会事務局長、学会事務局長。

3月28旬予定。

翌日に関西地区の研修会を開催

⑨事務局より

事務局体制として、事務局長の他に次長と幹事をおき、事務局会議を定期的に開催するなど、学会事務実務のワーキング化を行っていくようにする。今年度は試行実施し、次期総会で事務局体制や「事務局に幹事を置くことができる」といった会則改正をおこなう準備。

⑩次回理事会

2010年3月27日、大阪府立大で予定

これから開催される研修会の案内

日時	イベント名	場所
2009年12月19日	日本学校ソーシャルワーク学会北海道大会	札幌市・北星学園大学
2010年1月16日	日本学校ソーシャルワーク学会東海地区研修会	静岡市・静岡県総合社会福祉会館シズウエル
2010年1月16日	スクールソーシャルワーカー専門研修会(東海地区研修会に引き続き開催)	
2010年3月28日	日本学校ソーシャルワーク学会 関西地区研修会	大阪市・大阪府立大学

詳しくは学会ホームページをご参照ください。